

ニュースレター

No.5

発行日 2011年12月

1 ごあいさつ

先般の東日本大震災によって、被害に遭われた方々、そしてご家族や関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

本研究プロジェクトも影響を受け、計画の遅延がありましたが、現在では予定どおり進行し、研究に励むことができるようになっていきます。

調査へにご協力くださっている方々をはじめ、本研究プロジェクトを支えてくださる皆様のお力添えの賜物と、深く感謝いたします。

そしてまた、一日も早く被災地の復興が叶うよう、実行委員会メンバー一同祈念しております。

2 ご回答の御礼とお願い

フォローアップ調査へのご協力、ありがとうございます。今年初めに調査させていただいたデータの整備を終え、現在では本格的な分析に向けて、鋭意準備を進めているところです。

皆様の毎年の状況を把握するフォローアップ調査によって、今までの調査ではわからなかった家族の実態とその変化をとらえることができるようになります。

今後ともフォローアップ調査へのご回答を継続くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

来年の1月ごろに、次回の調査を予定しております。郵送にてアンケート調査票を送らせていただきますので、ご記入とご返送のほど、どうかご協力ください。

アンケートの回答および、皆様のお名前やご住所などの情報は、調査会社が厳重に管理し、他所にもれることはありませんので、ご安心ください。

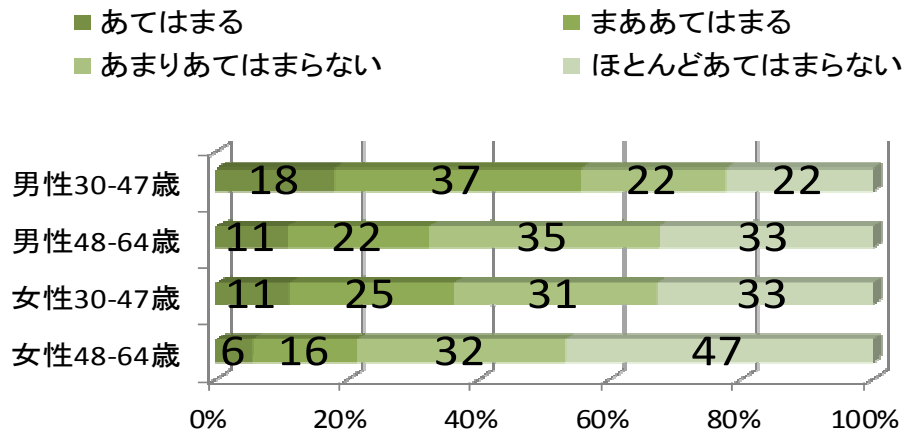
今回のニュースレターでは、これまでの3年間のデータから見えた「仕事と生活の調和」に対する考え方の変化をご紹介します。

3 調査結果のご紹介

仕事と生活の調和(ワークライフバランス)の状況

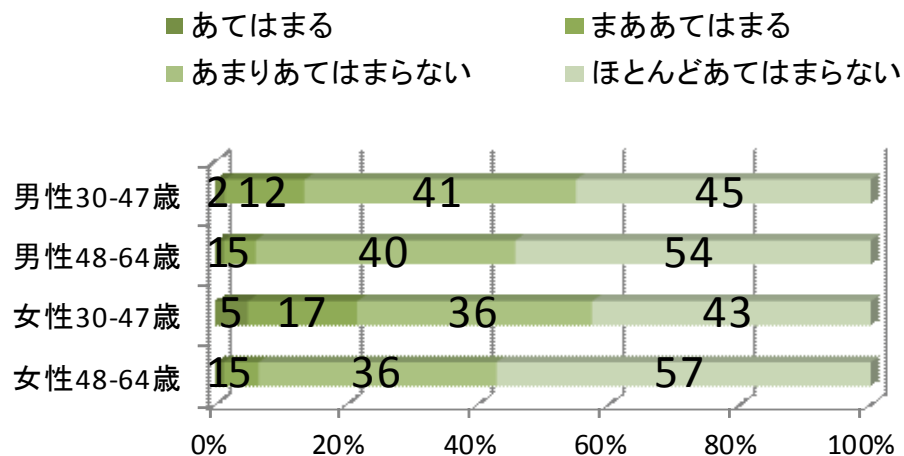
仕事と生活の調和は、現代社会の課題の1つです。現在仕事についている方々のうち、どれくらいの方が実現できていると感じているのでしょうか。

仕事が原因で家族といっしょに過ごす時間が十分とれない



上の図は「仕事が原因で家族といっしょに過ごす時間が十分とれない」という質問への回答をグラフにしたものです。全体的にみると、家族と過ごす時間を十分にとれていない方は、およそ3割ほどになります。しかし、若い世代の男性に限れば、それは過半数を超える水準にまで至ります。

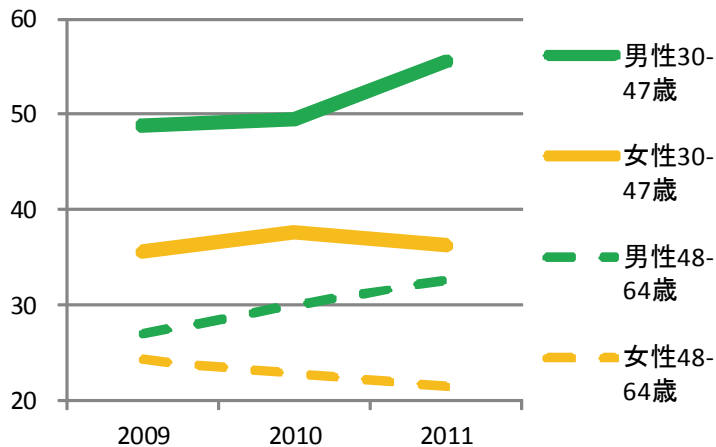
家族のあれやこれやで思うように仕事に時間を配分できない



こちらの図は「家族のあれやこれやで思うように仕事に時間を配分できない」という質問への回答です。家族のことで仕事のための時間配分が思うようにならないと回答された方は、それほど多くはありませんでした。ただし若い世代の女性は、比較的、仕事時間の調整に苦慮しがちであるようです。

2009～2011年のあいだでの仕事と生活の調和(ワークライフバランス)の状況の変化

仕事が原因で家族といっしょに過ごす時間が十分とれない
「あてはまる」または「まああてはまる」と回答した割合



ここ3年のあいだでは、仕事が原因で家族と過ごす時間がとれないと回答した割合は、あまり変わっていません。しかし男性に関しては、どちらかといえば、家族との時間がとりにくくなる方向へと変化しているようです。

家族のあれやこれやで思うように仕事に時間を配分できない
「あてはまる」または「まああてはまる」と回答した割合



家族が原因で仕事の時間が思うようにならないと回答した割合についても、あまり変化はみられません。しかしここでも、若い世代の男性において、わずかながら仕事の時間を調整しにくくなってきた傾向がみられます。

仕事と生活の調和に関する研究がご専門の、佐藤博樹教授（東京大学）に、これらの結果について、ご意見をうかがってみました。



特に壮年男性では、仕事が原因で家族との時間がとりにくくなる傾向が顕著です。こうした状況が持続すると、仕事にも意欲的に取り組みなくなる恐れがあります。
女性は、家事・育児に関する負荷が大きく、希望通りに仕事をしにくいでしょう。
働く人々の生活の充実にとって、ワークライフバランスの実現は、極めて重要な課題です。

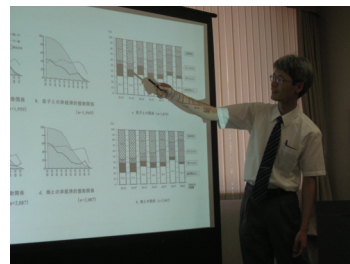
4 NFRJ-08パネル実行委員会から

NFRJ-08パネル実行委員会では、皆様からいただいた貴重なデータを有効に利用するため、定期的に研究会を開催しています。

右の写真は9月におこなわれた研究会の様子です。その他の活動については、NFRJ-08パネル実行委員会ホームページで紹介しています。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

NFRJ-08パネル実行委員会ホームページ

<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/followup.htm>



- ★ 転居なさった時は、お手数ですが、下記までお知らせください。

社団法人 中央調査社

〒104-0061

東京都中央区銀座6-16-12

0120-48-5351 (フリーダイヤル)

<http://www.crs.or.jp>



本調査でお送りする郵便物にはこのロゴがついています

〈実行委員会メンバー〉

西野理子 (東洋大学) 〈委員長〉

永井暁子 (日本女子大学) 〈事務局長〉

田中慶子 (家計経済研究所)

田中重人 (東北大学)

筒井淳也 (立命館大学)

水落正明 (三重大学)

三輪 哲 (東北大学)

保田時男 (大阪商業大学)